

当院での医療被ばく低減への取り組み —医療被ばく低減施設認定から更新を終えて—

竹田綜合病院 放射線科 | 鈴木雅博

当院は、(公社)日本診療放射線技師会が定める「医療被ばく低減施設」に2015年11月1日付で認定されている。この認定は、真正性と公平性および継続性を確認するため、更新制度となっており、このたび書類審査、オンライン審査を受け、2024年1月1日付で更新することが出来た。そこで、当院での認定・更新に対する取り込みや被ばく管理に関するシステムについて報告する。

はじめに

当院は福島県会津若松市にある837床の基幹病院で、急性期医療・亜急性期医療・専門医療を提供している地域医療支援病院である。

また、東京電力福島第一原子力発電所からは直線で西に98Km離れたところに位置し、2011年の福島第一原子力発電所事故の際は、会津若松市では約5千人の避難者を受け入れており、当院スタッフも避難退域時検査(スクリーニング)などへの協力を行ってきた(図1)。

2012年10月には、急性期医療の一層の機能充実を図り、救急・重症患者への対応を強化するために老朽化した病院の建て替えとして新病院「総合医療センター」を敷地内に移転してオープンし、PET-CT

装置など一部装置は旧病院から移設したものCT装置やX線撮影装置などは最新の装置が導入された。

医療被ばく低減施設認定

医療被ばく低減施設の認定は、(公社)日本診療放射線技師会が「安心できる放

射線診療」を国民の皆さんへ提供するための事業として行っている。福島第一原子力発電所事故の影響を受け、『放射線』に関する人々の関心も高まっており『被ばく』に対する不安や恐怖を感じながら生活している人々はまだ多くいる。そんな中、この地域の方々に安心して放射線診療を受けていただき、良質な医療を提供するために医療被ばく低減施設の認定



図1 福島第一原子力発電所事故当時の避難退域時検査(スクリーニング)